

平成 20年 5月 7日

新宿区長 殿

法人名 特定非営利活動法人
東京都中途失聴・難聴者協会
所在地 新宿区新宿 2-13-11-1003
(フリガナ) タカオカ タダシ
代表者氏名 高岡 正

事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第19条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1 助成対象事業

事業名	字幕付きプラネタリウム
実施日時又は期間	平成20年3月15日(土)午後1時半～3時
対象者の範囲及び人数	新宿区民、聴覚障害者、聴覚障害をもつ子ども
事業内容	新宿コズミックセンター内のプラネタリウム番組に字幕を付けて上映し、聞こえる人、聞こえない人が共にプラネタリウムを楽しむ。
具体的な活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・プラネタリウムに字幕を付ける方法の研究のためまず調査を行った。名古屋市科学館、川口市科学館を訪れて字幕付けの方法、投影のための技術的方法を調査。また、都内のプラネタリウム数ヶ所を見学し、プラネタリウムの現状を視察。聞こえない担当者が実際に見て、どのように字幕を付けたら分かりやすいかを研究した。 ・レガス新宿の協力を得て、番組台本、音声テープを借り、字幕づくりを行った。 ・音声に合わせて字幕を出す練習を繰り返した。プロジェクタとパソコンの接続方法、プロジェクタの機能の活用方法を試行錯誤しながら研究。 ・新宿区の協力を得て、チラシを配布。またホームページにおいても広報をした。
事業の成果	74名の参加者があった。アンケートをとったところ、「字幕がないために今まで楽しめなかったプラネタリウムを見られてよかった」、「またやってほしい」、「他のプログラムでも見たい」などの意見が寄せられた。都内では「字幕付き」でのプラネタリウムは過去に数回実施されたようだが、定着していない。レガス新宿のご協力で、多くの方々に見ていただけたことはよかった。字幕付け、上映の技術的な問題は、関係者の努力により解決した。さらに見やすい字幕をつくり、聞こえない方のさまざまな社会参加につなげられればと思う。事業担当者の半数は聞こえない者であったが、調査研究に積極的に関わって実現への大きな力となった。

2 助成対象事業費内訳（実績）

内訳は、できるだけ「単価×数量」で示してください。

1万円以上のものについては、領収書（写し可）を添付してください。

収入	経費	積算根拠（内訳）		金額
	団体負担金			151,136 円
	参加費・資料代等			0 円
	その他の収入			0 円
	協働推進基金助成金	助成金申請額		150,000 円
	計			
支出（助成の対象になる事業費の内訳）	費目	決算額	内訳	
	会議費	18,000 円	実行委員会会場費 2,700、コピー300 手話通訳費@1,500×2名×5回	
	宣伝費	12,492 円	紙代白@939×2、カラー@1,438×3 インク代 6,300	
	リース費	26,300 円	アイアシステム（FM補聴システム）25,200 プロジェクタ（実行委員会時使用）1,100	
	消耗品費	18,484 円	封筒代 10,366 宛名シール 8,118	
	謝礼	64,500 円	手話通訳@6000×2、要約筆記通訳@6000×4、 実行委員7名分謝礼 13,500（@500×延べ27回） 実行委員当日謝礼 9,000（@3,000×3名） 名古屋調査手数料 3,000、アンケート集計手数料 3,000	
	人件費	7,500 円	当日出勤職員手当て@2,500×3名	
	材料費	円		
	交通費	67,780 円	名古屋往復 15,460、職員交通費1名・延べ14回 12,240 実行委員7名・延べ27回分合計 40,080	
	その他諸経費	86,080 円	当日のスタッフ入場料@300×14名、 機材運搬費用 7,930、郵送代 13,950 字幕作成費等にかかる委託料（全要研へ）60,000	
	助成対象事業費（小計）	301,136 円		
余剰金	0 円			
助成対象外事業費	0 円			
事業総額			301,136 円	

3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
事業を計画した当初に決めた課題について、どこまで達成できたか。	字幕付けはゼロからのスタートだったが、既に実施している方々からの助言により、実現することができた。その結果、多くの聞こえない方々にプラネタリウムを楽しんでいただけた。
地域にどのような効果があったか、又は今後見込まれる効果は何か。	字幕の必要性を知ってもらえた。当初はプラネタリウム担当の職員の方たちに主旨を理解していただくのが大変だったが、何回か打ち合わせを行い協力していただけた。区内の聴覚障害の方が広報を見て参加されていた。字幕があったからこそと思う。
新たに気づいた課題は何か。	定期的に「字幕付き」での上映があれば、聞こえない人も楽しめる。プラネタリウム側には字幕制作のノウハウがない。他の地域のプラネタリウムでは職員が主になって字幕付き上映を行っているところもある。施設側が主とならないと、継続的な実施が難しい面がある。
理解者や支援者が広がったか。	生涯学習財団の職員の方とは、打ち合わせを何回かすることで、聞こえないという障害を理解していただいた。打ち合わせには聞こえない者も参加し、要約筆記や手話を使いコミュニケーションを行った。当事者が動くことで、社会に聴覚障害者のコミュニケーションを知ってもらえた。他のプラネタリウム関係者とも会い、字幕の必要性を訴えることができた。
事務局の執行体制は十分だったか。	事務局だけでは実行できない事業だったので、実行委員を募り、計画、調査研究、リハーサル、当日の運営等を分担して行った。特に調査研究では、聴覚障害の委員が大きな力となった。
今回の事業を発展させた新たな事業としてどのような事業が考えられるか。	高齢社会になり、聞こえに不自由されている高齢者は増えている。施設やデイサービス、またデパートやお店で、耳が聞こえにくくなっている高齢者と職員、店員とのコミュニケーションは円滑に行われているだろうか。聴覚障害を正しく理解することで、よりよいコミュニケーションができるはずである。コミュニケーションについて学ぶ講座、学習会、ワークショップなどが考えられる。
その他	レガス新宿の方々にはたいへんご協力をいただき、初めての試みだったが失敗なくできた。ただ、プログラムが古いのが気になった。投影は既にできているものを上映するだけで生の解説が少なく、新しい発見などを知ることはできないものであった。区民特に子どもたちの教育という面では不十分であると感じた。

4 活動の成果

* 事業の成果物(冊子など)又は、事業の開催時の写真など提出できるものがある場合は添付してください。
* 参加者の意見なども報告してください。

<添付資料>

- ・ チラシ
- ・ アンケート結果
- ・ 川口プラネタリウム見学報告
- ・ 名古屋プラネタリウム見学報告
- ・ 当日の準備風景写真(写っておられる方全員の許可を取って提出しているわけではありませんので、取り扱いに注意してください)
- ・ 領収書写し(額面 10,000 円以上のもの)